

令和7年度 宮崎県立延岡商業高等学校 学校評価書

<p>教育目標 宮崎県教育基本方針および宮崎県人権教育方針に基づき、個性の伸長に努め、知・徳・体の調和のとれた、主体性・先見性・創造性・実践力のある「未来を切り拓く心豊かでたくましい宮崎のひとりづくり」を目指し、郷土を愛し、広い視野を持ち、地域や社会の発展に主体的に参画するとともに夢や希望を抱き生涯にわたって自己実現を図れる、質実剛健にして堅忍持久・勤労愛好の精神に富む人材を育成する。</p>
<p>経営方針 校訓 「質実剛健 堅忍持久 勤労愛好」 スロガン 「栄光は君に 挑戦せよ！ 延商生 ～やるならトコトン！～」</p> <p>◎めざす学校像 「探究力を高めるキャリア教育」を推進し、「集団を大切に」「生徒一人ひとりを鍛える」「生徒のもつ可能性を発見し、伸張させる」教育活動により、「生きる力」を育む学校</p> <p>◎めざす教師像 『高い専門性と指導力を備え、使命感と情熱をもって生徒を育む、人間性豊かな教師』</p> <p>◎めざす生徒像 ○人間力と実践力を身に付け望ましい倫理観・勤労観を持った心豊かでたくましい生徒 ○地域を愛し、地域に信頼され、経済社会の持続的な発展にビジネスの視点を持って貢献できる資質を備えた生徒 ○将来の進路について自ら探求し、目標実現に向けて継続的に努力する生徒</p>

<p>重点目標 「探究力を高めるキャリア教育」を推進し、「集団を大切に」「生徒一人ひとりを鍛える」「生徒のもつ可能性を発見し、伸張させる」教育活動により、「生きる力」を育む。</p> <p>(1) 「頭」を鍛え、褒めて、伸ばす(学力の向上と進路の実現)</p> <p>① 生徒の理解度を高める教科指導を推進し、基礎学力の定着を図る。 ② 経営・経済の不易と流行を学ばせる専門教育の充実に努め学んだ成果を実感できる資格取得を推進する。 ③ キャリア教育・職業教育を推進し、夢や希望を育て、進路実現に向けた組織的な支援体制により、実現する力を身に付けさせ、生徒一人ひとりの自己実現を図る。 ④ ICT教育の推進を図る。 ⑤ 教職員が授業を中心とした質の高い教育活動に専念できる環境づくりに努め、「教育の質の向上」と「生徒の教育の充実」を図る。 ⑥ 教育環境を整える施設、設備、備品等の充実と就学支援に関する制度の周知、積極的な利用促進を図る。</p> <p>(2) 「心」を鍛え、褒めて、育てる(規範意識の確立と心の教育の充実)</p> <p>① 「時を守り、場を清め、礼を正す」実践指導と道徳教育の充実により、基本的な生活態度の確立を図り、生命を大切にする心や他人を思いやる心を育てる。 ② 学校行事やホームルーム活動等を通して、集団の中で輝く個性の伸長に努め、自主性・自立心、人間関係構築力を育成し、豊かな人間関係の醸成に努める。 ③ 読書や体験活動、を通して豊かな心の育成に努める。 ④ 「教育相談体制」の充実、「特別支援教育体制」の充実、「通級による指導」体制の構築に努める。また、そのために必要な関係機関との連携を推進する。</p> <p>(3) 「体」を鍛え、褒めて、伸ばす(健康・安全教育の充実と部活動の活性化)</p> <p>① 生徒の個々の状況に合わせた心身の健康教育や安全管理の充実を図る。 ② 危機管理、防災対策に組織的に取り組み、施設設備を含めて、学校の安全管理の徹底を図るとともに、生徒の危機回避能力を育成する。 ③ 部活動や学校行事等を通して、自己の鍛錬と向上心を育み、スクールリーダーを育成する。 ④ 継続して就業できる社会人の育成を図る。</p> <p>(4) 『延商の教育』を達成するための制度の充実『ワンチーム延商』の確立</p> <p>① 学校組織マネジメントの(PDCA)の活用 ○ 継続的な検証改善サイクルの実践。 ② 教職員の協働性(同僚性)参画意識の確立『共通理解と組織的取組』 ○ 組織力と参画意識を高める報告・連絡・相談及び校務分掌間の事前の調整・理解の推進。 ③ 家庭、地域との連携・協働の推進 ○ 家庭、地域社会への積極的な情報発信と地域と連携・協働した社会貢献活動の推進。</p>

重点目標	評価項目	具体的方策及び評価指標	自己評価	成果及び改善策	学校運営委員評価	評価・具体的意見
「頭」を鍛え、褒めて、伸ばす	【教務部】 学習習慣の確立	・自宅学習の定着。 ・長期休業中における課題一覧表を作成することで、長期休業中の課題を期日内に提出させる。また、課題一覧表を保護者にも示すことで、家庭と学校が連携して生徒の学習指導にあたる体制を作る。	B	・日々課題を準備し演習に取り組ませている教科があった。教科の課題と併用して自宅ノートに取り組ませている学年もあり、学力を定着させるため工夫を凝らし指導に当たった。	B	
	【教務部】 基礎学力の定着	・黙学の内容の充実を図る。数学における基礎問題と発展問題、英語における基礎問題と英検問題の選択制を取り入れることで、学習意欲の高い生徒の学力向上を図る。	B	・生徒の学力や学習意欲に応じて、問題を選択できる方式に改善した。生徒が主体的に学ぶ取り組みの一步ではあるが、カリキュラム検討委員会等で意見を頂きながら最善の形を作りたい。 ・黙学で使用するプリントは平均的なレベルとしていたが、今年から発展的な問題を入れたことで、手持ち無沙汰だった生徒が積極的に取り組む姿が見られた。	B	
	【教務部】 授業力向上と授業改善	・研究授業や公開授業を通して、授業改善を目指す。 ・探究的学び(生徒自身が考える)にスポットを置いた研究授業を実施する。	C	・他教科の指導方法をこの機会に参観し、少しでも実りある取り組みを目指し取り組んでいるが、参観率の向上が課題として残る。 ・数学×商業の横断的な内容の研究授業を実施し、検定の取得率が伸びた。	C	
	【生徒指導部】 服装容儀指導の徹底	・常時指導の徹底。生徒指導部を中心に見逃さない指導を心がける。指導票管理の一元化や定期的な朝の正門指導を実施する。	B	・生徒の意見を取り入れた校則見直しの流れの中で、我々教員側も変化を求められている。常時指導を基本として取り組んできているが、再度、情報共有を徹底し、統一した指導体制を確立していきたい。	B	・中学校でも生徒が終身で校則を見直している
	【生徒指導部】 生活態度の確立	・問題行動を未然に防ぐために、予防的生徒指導を充実させる。 ・携帯、スマホの校内持ち込みルールやマナーの徹底。情報モラル教育を推進し、集会等で生徒及び保護者の意識喚起を促す。 ・靴箱、駐輪場の指導を学年と協力して取り組む。施錠率100%を目指す。	B	・情報モラルに関する全校講話を、外部講師を招いて行った。 ・問題行動においては、無断アルバイト等で指導を行った。ルールを守ることへの認識が低く、場当たりの行動が見受けられた。生徒の自己肯定感を高める指導を心がけ、規範意識の醸成へとつなげたい。	B	・予防的生徒指導。施錠率100%に言及していない。
	【生徒指導部】 マナー教育の徹底	・全職員の共通理解の元、ビジネスマナー指導の徹底。 ・人前を意識した行動ができるマナー指導を生徒指導部中心に全職員で取り組む。 ・交通マナー苦情ゼロを目標に掲げ、問題が発生した場合には即全体指導を行う。 ・登下校経路確認の徹底。定期的に立ち番指導を実施する。自家用車による送迎ルール、マナーの徹底。	B	・ビジネスマナー指導や交通マナーについては、部門委員会活動など、生徒の主体的な取り組みにより行動が変容するように粘り強く指導している。 ・交通関係でのクレームは以前と比べると少なくなったが、一時停止無視など大事故につながる連絡がある。 ・裏門から生徒を登校させる事で、正門での送迎車の混雑がかなり解消された。 ・公共施設の利用マナー向上については、人前を意識した行動ができるマナー指導を強化していきたい。	B	・必ずどの生徒も挨拶してくれて学校に行くこととモチベーションが良かった。
【生徒指導部】 スクールリーダーの育成	・キャプテン集会、部活動生集会を開催し部活動を通してリーダーの育成に努める。 ・部門委員会の活性化(原則月1回)。具体的活動を示しながら、生徒が自ら考え、主体的に行動できるように促す。	B	・部門委員会を毎月実施し、生徒の主体性の育成に努めた。今後、部活動の活性化も含め、時間の確保と質の向上を図るための取り組みを進め、生徒の主体的な取り組みをサポートするための体制を整えたい。	B		

「頭」を鍛え、褒めて、伸ばす	【進路指導部】 進路指導体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> 全職員で取り組む進路指導体制を整える。 各部・各学年と連携し、生徒が希望する進路実現を目指す。 生徒が出願手続きを行う際、遺漏のないように丁寧な指導を行う。 	B	(1/3 現在) <ul style="list-style-type: none"> 就職内定 84 名【市内県内 62 名 県外 15 名 公務員 6 名 自営 1 名】 進学決定 83 名【大学 29 名 短大 5 名 専門学校 42 名 看護 7 名】 未定者 6 名 未定者に対しては、引き続き指導・支援していきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 未定者 0 を願う。
	【進路指導部】 キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ガイダンスや講話などの進路行事を充実させ、一人ひとりのキャリア発達を支援する。 将来の社会的・職業的自立の基盤となる資質・能力・態度、および望ましい勤労観・職業観を育成する。 キャリアパスポートを活用し、学習や生活の自己評価をさせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 3 年生に夏休みのキャリアガイダンスや小論文講座などに参加させ良い刺激を与えることができた。 今後、企業からも職場見学会や体験の案内が来ていることから、積極的に活用し、将来の職業観育成に役立てるようにしていきたい。 キャリアパスポート（進路学習記録ノート）に入力させるだけでなく、振り返りに活用できるようにしていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 企業側の立場から最低 5 年間の勤務を希望します。 進路指導（就職、進学）に加えて、「社会に出て、働く意味」を考える時間を作る必要がある。 地域企業と連携して職場見学会や体験の機会を活かすことも、キャリア教育に効果的だと思う。 生徒に寄り添った指導をしていただいていると思います。引き続きよろしく願いたい。
	【進路指導部】 進学対策の充実 大学試験・公務員試験等	<ul style="list-style-type: none"> 担任・教科と連携し、生徒の適性や能力に応じた進学指導をおこなう。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 進学希望者に対して、個別の小論文指導や課外など協力を得ながら指導を行った。今後は、学力+実績（検定・校内外の活動）が重視されると考えられるため、1・2 年生に周知している（学年 P T A 等）。 公務員課外も計画どおりに実施できた。 	B	
	【進路指導部】 関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ハローワーク、延岡市、各企業・専門学校とのネットワークを充実させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 連携は良好である。今後も外部機関の力をお借りして充実させていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 工業会関連の分科会でも積極的な関与が見受けられ、意欲的に取り組んでいる。 第 1 次産業の（農業）就職も選択肢に入ることを願います。
	【ICT 広報部】 ICT 教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ICT 機器と PC 室の整備と管理する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校務用 PC・学校端末・PC 室のアップグレードを完了させた。10 月に校務用 PC（H30）を新規 PC に 11 台入れ替えた。1 人 1 台端末の業者を最安値で決定したが、生徒の 1 人 1 台端末の管理やタブレット端末の貸出返却時の記録簿、ICT 機器の故障が課題である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生成 AI を活用する力（AI に使われるのではなく）を鍛えてほしい。
		<ul style="list-style-type: none"> ICT を活用した授業実践を共有する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> google アプリの使用方法など個別研修をした。Googlefor Education 活用ライブラリ、ひなた I C T 教育ポータルサイト（各学校で取り組まれた授業実践・成果報告会等のアーカイブ動画、Google アプリ活用マニュアル、「百問繚乱」に関する各種情報など）を準備し、積極的な利用を呼び掛けている。 	B	
	【保健環境部】 授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 棚の使い方や整理の見本を示し整頓させ、学習に集中しやすい環境を作る。 教室や棚の整頓を生徒自身で行うことができる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 担任、副担任の先生方の協力があり、棚の整理整頓が保たれている。 	B	
	【図書部】 専門教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 授業における図書館の活用促進を図る。 各教科や商業教育に関する専門的な資料を充実させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 2 学期は生徒・職員のリクエスト本や話題の本を中心に購入できた。日経 TRENDY、LDK など教科に必要な情報が掲載された雑誌も揃えることができた。 	B	
	【図書部】 キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 関係分掌や各教科と連携し、探究学習の充実を図る資料等を揃え、活用を促す。 昼休みや放課後等、図書館を自学自習の場として開放し、学習に対する自主性を高める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 国語科の授業で図書館を利用してディベートを行った。またテスト返却時や放課後の学習指導等、図書館を利用が増えている。 学習や読書のために利用する生徒の姿が見られた。 		
	【渉外厚生部】 PTA 研修会への積極的な参加	<ul style="list-style-type: none"> 各種 P T A 行事に多くの保護者が参加し、行事は勿論、学校の活性化に寄与する。 又、相互の親睦を図り、研修視察も実施、親として大人としての見聞を広げることに努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 2 学期は、視察研修に高鍋の製造工場と宮崎市の専門学校を訪問した。製造工場に関しては、最先端で職員のメンタルや安全面にも配慮した職場環境に触れ大変勉強になった。専門学校では、作業療法士の体験し見聞を広げることができた。また、桜華祭（文化祭）では校内警備を保護者に依頼し、安心安全面においても貢献することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 来年以降も続けてほしい。 校内警備は大事な仕事だと思います。引き続きこの作業でよいと思う。
<ul style="list-style-type: none"> 高 P 連九州大会、全国大会、県大会に参加し、他県、他校の取り組みを知り、本校の P T A 活動が更に活性するためにはどうすれば良いかを検証、検討することに努める。 		A	<ul style="list-style-type: none"> 県北地区母親委員会（日向）、県高 P 連大会（日南）への積極的な参加ができた。また、P T A 理事と職員間も大変良好な関係が築けた。 例年実施している桜マーケット（販売実習）での弁当販売を、校内警備に変更した。参加された P T A 役員からは「警備費削減につながってよかった」「生徒の実績が見られた」との意見をいただいた。 	A		
「心」を鍛え、褒めて、育てる	【教務部】 学習環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査期間や長期休業中における私物の持ち帰りを実施し、整理整頓を徹底させる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 先生方の指導もあり、概ね持ち帰り状況は良好である。今後も指導の徹底していきたい。 	A	
		<ul style="list-style-type: none"> チャイム前の着席を呼び掛けることでベル着、ベル開始を励行する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 先生方に、授業開始前に教室へ入室しチャイムと同時に授業をスタートするようお願いしており、今後も、声かけを続けていく。 	B	
	【進路指導部】 規範意識の確立 心の教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 日常を通して挨拶や正しい言葉遣い、入退室のマナー指導を徹底する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導室では、日常的に指導を行っているが、今後も、マナーに加えて社会人としての常識についても指導していきたい。 	B	
	【進路指導部】 主体的で積極的な 生徒活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 進路の情報を的確に発信する。（進路だより等） 進路指導室を積極的に利用させる。（L H R、昼休み、放課後等 利用しやすい雰囲気をつくる） 	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路だよりは計画的に発行できた。 進路指導室の利用が少なかった。1・2 年生の利用を積極的に勧めていきたい。 	B	

「心」を鍛え、褒めて、育てる	【保健環境部】 マナー教育の徹底	・施設・用具を正しく、大切に使用し、公共の場でのマナーを理解する。 ・ごみの処理、トイレの使用の注意を促す。ごみや器物破損を減らす。	A	・新入生オリエンテーションで「保健室利用について」の周知を行った。 2・3年生には、養護教諭がその都度指導している。 ・担任や教科担任の先生、清掃担当の先生方の指導により、ゴミ等の散乱は見られない。 ・自販機周辺のゴミ放置について、生指部が指導を行った。	A	
	【保健環境部】 豊かな心の育成	・清掃集会や定期的な強化週間を設定する。 清掃取組みの意識が高まったと思える。	B	・清掃集会の実施はできなかったが、各種集会の際に清掃活動への意識高揚のための話を投げかけ続けている。	B	・具体的方策及び評価指標を再設定してはどうか。 ・校舎内でごみ拾いをしている生徒を見た。
	【図書部】 読書の推進	・朝の10分間読書を充実させる（全職員が生徒と一緒に教室で読書を行う）。	A	・先生方の指導で朝読書を全校で実施できている。集中力のない生徒もいるので、机上整理をさせて黙学からの切り替えができるよう今後も促していただきたい。 ・図書館利用促進のため、季節ごとに展示や特集コーナーを設置している。今年度は生徒の成果物（国語科：読書レポート）展示や修学旅行関連本、探究学習SDGs特集コーナーを設けた。 ・図書委員会では2学期も毎日のカウンター業務、朝読書見回りや図書日より発行などの活動ができた。生徒企画として「図書まつり」「本の福袋」イベントを開催することができた。 ・利用しやすく立ち寄りたくなる図書館になるよう、さらに配架を工夫していきたい。 ・本の未返却が多い。 ・読書量調査「一か月で読んだ本の量を教えてください」を毎月実施しており、現在、生徒一人の月1.3冊となっている。	A	・AIと共生するためにも読書の習慣を高校生の時につけることはとても重要です。
		・生徒の読書量および図書館利用者を増加させる。 ・読書量調査を継続し、貸出総数1,400冊（一人3冊）以上を目指す。	A			
		・明るく立ち寄りやすい図書館の雰囲気を作る。 ・新刊図書案内、特集コーナー等、蔵書の配架を工夫する。	A			
	【図書部】 スクールリーダーの育成	・図書委員会活動の活性化を図る。 ・カウンター業務・読書量調査に主体的に取り組む。 ・図書だよりの内容を充実させ、読書の啓発と図書館利用促進を図る。	A			
	【図書部】 豊かな心の育成	・生徒の文化的活動の成果物や作品展示を通して、他を認め、自尊心を高め自己肯定感を育てる。	A			
【渉外厚生部】 PTA新聞を通して、延商の良さや魅力を発信	・PTA新聞に生徒が活躍している写真や記事を多数掲載するなど、保護者が興味を持つ紙面作りを行う。	A	・写真を多く掲載することで、保護者の興味をひく紙面作りができた。	A		
【教育相談部】 好ましい人間関係づくり	・共に支え合う仲間づくりの一環として各学年、学期1回、LHR等での構成的グループエンカウンターやSSTを計画し、指導案を提供する。	B	・1,3年は構成的グループエンカウンターを実施できた。年度締めくくりの3学期は全学年で実施していただきたい。	B		
【教育相談部】 豊かな心の育成	・人権学習を実施し、生徒の人権感覚を養う。 ・学校生活のあらゆる場面において道徳教育の推進理解を深め、規範意識を持ち、正しい価値基準を持って行動できる生徒を育てる。 ・延岡しろやま支援学校との交流教育の充実を図る。 ・教育相談活動周知のため、生徒職員に毎月カウンセラー便りを発行し、心に関する話題や生徒の学びや気づき等を掲載する。	A	・職員研修の一環として職員8名が県、日向市、延岡市の人権・同和教育研究大会に参加した。次年度以降も「原則、3年に1度の参加」をお願いすることで、職員も生徒と一緒に人権感覚や正しい知識の習得を進めたい。 ・計画に沿って人権学習を実施した。次年度も事前研修等の充実を図りたい。 ・12月に本校企画で延岡しろやま支援学校との充実した交流ができた。次年度以降も年2回の交流教育を考えている。 ・毎月カウンセラー便りをだすことができた。 ・自己、他者を客観視できない生徒が増えており、狭い関係性の中でトラブルを抱える傾向にあると感じていることから、生徒の言動の都度、話して聞かせる、繰り返しの指導を行っていきたい。	A	・次年度も支援学校との充実した交流をお願いしたい。 ・新設される高等特別支援学校との連携に期待しています。	
「体」を鍛え、褒めて、伸ばす	【生徒指導部】 健康・安全教育的推進	・交通教室や防災訓練及び情報モラル教室を年度の早い段階で実施。 ・校外外における防災教育の充実と関係機関及び地域住民との連携を図る。	B	・自転車通学途中の交通事故が数件発生している。まずは、道路交通法を遵守し、マナー意識を高めるとともに、命を守る有効な手立てとしてヘルメットを着用することを啓発していきたい。 下校時のヘルメット着用率と学校周辺以外での着用率はかなり低い状況である。 ・交通教室は、警察による事故映像等を使った講話を実施するとともに、娘さんをなくされた遺族の方の講話を実施した。 ・防災教室では、地震直後に火災が発生する想定で避難訓練を実施するとともに、避難所用テントの展示を行った。	B	・他校に比べれば着用率は良いのでは。 ・実施している学校が少ない中、延商生は立派に全うしていると思う。
	【生徒指導部】 部活動の推進	・部活動加入率80%以上を目指す。	B	・入部率79.1%（1年生：87.9% 2年生：80.4% 3年生：69.1%）であった。12月時点の全体加入率は0.2%下がったが、退部者を最小限におさえることができた。	B	・加入率100%を目指してほしい。
	【保健環境部】 健康・安全教育的推進	・保健だよりの発行や集会での指導を行う。 感染症や熱中症、けがの予防ができる。	B	・生徒の保健委員と養護教諭が保健だよりを発行している。 ・大きな水難事故があった。二度と起きないようにする。	B	・学校がどこまで関与するのか不明ですが、貴学で起きた悲惨な事故として継承いただけるといいかと思う。 ・悲しい思いをすることが二度と起こりませんように。
	【保健環境部】 生活態度の確立	・ケガや病気の防止に努め、授業への遅刻を減らし、出席率を高める。 ・体力の向上を目指し、活力ある学校生活を送る。 授業への参加率の向上。	A	・ケガや病気による授業への遅刻はほとんど無くなっている。 ・体育科の体力向上プランに則って、体育科と協力し、体力の維持向上にサポートしている。	A	
	【保健環境部】 主体的な生徒活動の活性化	・清掃点検、保健だよりの発行、感染症予防の呼びかけを行う。 ・美化委員、保健委員会の活動の活性化。	A	・保健委員がクラスへの投げかけを行う機会を設けている。 ・体育行事や、生徒会行事と連携して、活力ある学校生活を送る雰囲気づくりをしている。	A	
	【渉外厚生部】 安全教育的徹底	・職員・PTA役員合同の登校指導を行い、生徒の交通規範意識を高める。 ・事故や怪我、物損事故などに際しては、速やかに総合保障制度の適宜運用に努める。	B	・今年度より、PTA合同朝の交通立ち番指導を1日にし、1,2,3学期とも実施した。 ・総合補償制度の関しては滞りなく運用に努めることができた。	B	

「体」を鍛え、褒めて、伸ばす	【渉外厚生部】 栄養面でのサポート	・ロードレース大会で、PTA 役員による豚汁会を行い、生徒の心、体を温める。	A	・ロードレース大会の豚汁振る舞いでは、PTA 理事を中心に PTA 桜援会の皆さんが本当に率先して動いてくださった。手伝いたいという希望者も多く、大変ありがたい。	A	・何杯もおかわりする生徒もいて「作ることができとよかった～」とつくづく思いました。 ・延商会も協力します。	
	【事務部】 学校予算・資産の適正かつ計画的な執行	・各部各教科からの要望をとりまとめ、学校生活が安全かつ円滑に行われるよう適正な執行を行う。	A	・要望をとりまとめ、順次執行している（物品購入、修繕等）ところである。	A		
		・光熱水費や消耗品(文房具やコピー用紙等)など需用費の節減に努め、校舎等の修繕費を捻出する。	B	・物品のなるべく安価な調達、節電の推進等、可能な限り行っている。 ・印刷室 EPSON 印刷機の印刷コストが高額になっている。答案をモノクロ印刷化とするなど、先生方に周知しカラー印刷代が削減されてきている。	A		
		・備品等を整理し、有休備品や共有できる備品の情報提供を積極的に行い活用する。	B	・年度内に備品点検を行い、物品の有効活用を図っていく予定である	B		
	【事務部】 学校施設及び教育・環境に関する安全維持管理	・安全性を重視して点検を行い、早急に対応し学校施設の環境維持・整備に努める。	A	・施設設備) 順次、安全面を第一に必要性の高いもの、予算の措置されたものから修繕・改修を進めている。	A	・第2グラウンド野球バックネットの施工を早くお願いしたい。	
		・旅行命令の精選による適正かつ計画的な旅費の執行を行う。(県外出張は2学期までに計画を提出)	A	・旅行命令) 現時点では計画的な旅費の支出に留まっている。教諭から質問等があれば対応している。			
	『延商の教育』を達成するための制度の充実『ワンチーム延商』の確立	【教務部】 保護者との情報共有	・月別行事や考査日程、成績配布などの教務に関する情報を定期的に発信し、保護者への情報提供および情報共有に努める。	A	・家庭と学校が連携して指導を行える体制づくりの一つとして、月別行事や考査日程、考査の返却に関する情報を保護者と共有した。	A	・毎回活用させていただきました。ありがとうございました。
		【教務部】 自己管理能力の育成	・手帳を活用し自己管理能力の育成に努める。また、学期ごとに意識調査を実施することで、生徒の意識を高める。	C	・生徒による達成目標の項目に手帳利用を入れ、全職員で指導を引き続き継続していく体制ができた。手帳の活用状況については、生徒により大きな差があるように感じる。手帳を開く習慣を身に付けることから始める必要がある。 ・手帳に関する調査については、年度途中より生徒が個別に決める“目標設定”に切り替えて行うこととなった。	B	・記録を残すことは社会に出ても必要です。 ・手帳を日常化するため、先生方による継続した積重ねに期待します。 ・個人の意識が大事ですね。指導よろしくをお願いします。
		【生徒指導部】 学校行事の活性化	・学校行事の意義を考えさせる機会を増やし、生徒の満足度を高める。	B	・体育大会や桜華祭(文化祭)など、どの行事も成功裏に実施できたが、今後も、アンケート結果を踏まえ可能な限り生徒の意見を反映させた行事運営をすることで、生徒の自己肯定感や満足感を高めたい。	B	・生徒の皆さんに実践して考える力を身に付けてほしい。
		【進路指導部】 職員の協働性の確立	・進路に関する情報共有と職員共通理解のもと、家庭と連携しながら指導する。	B	・面接・作文、小論文に関して、全先生方の協力のもと指導を行うことができた。 ・3年次の進路選択の時期に、積極的に3者面談等を実施し、生徒の希望と保護者の意向を確認しながら進路指導を行うことができた。	B	・先生方には大変お世話になりました。
【ICT 広報部】 ICT と業務の推進		・ICT を活用した校務推進	A	・ICT を活用した授業実践のために google アプリ、生成 AI など積極的に活用できるように研修資料を作成し、先生方に提供した。	A		
【ICT 広報部】 広報活動の充実		・学校 HP 閲覧数累計 480 万目標 (R7.4.1 時点 386 万) ・Instagram のフォロワー数累計 4,200 人目標 (R7.4.1 時点 3,567 人) ・報道等によるデジタル広報を充実させる	A	・学校 HP : 12/1 時点 4,220,897 閲覧。Instagram : 12/1 時点 5,366 名フォロー達成し県立高校 NO.1 のフォロワー数も維持している。	A	・Instagram いつも楽しみに見えています。学校の様子が見られてとても良い。	
		・学校ポスター、パンフレット、新聞等によるアナログ広報を充実させる。	A	・延商新聞を1・2学期にそれぞれ作成し、各中学校に配布した。	A		
		・学校説明会などによる広報の充実により入試倍率 1.0 倍を目標とする。	A	・先生方の協力で全中学校で説明を実施した。 ・R7 年度入学生 推薦 1.69 一般 0.85 R8 年度入学生 推薦 1.63 一般 — (2/13 現在)	A		
【保健環境部】 職員の協働性の確立 (ココロ和むネットワークづくり)		・職員の清掃への率先垂範と指導。全職員で取り組んでいる。	A	・先生方が率先して清掃活動を行っている。	A	・生徒は先生方の背中を見えています。トイレも教室もいつもきれいです。	
【保健環境部】 家庭、地域との連携		・家庭への発信の機会を作り、感染症等の予防対策を発信する。 ・地域と連携した美化活動を学期1回、特設 LHR で行う。	B	・感染症予防に関する内容の保健だよりを発行している。 ・地域清掃活動について1学期は雨で実施できなかったが、2学期は1年生が地域に出て、分担して清掃活動を行った。地域の方の参加も見られ、いい活動となった。3年生は校内の大清掃を行った。	B		
【図書部】 職員の協働性の確立	・各種行事を各部・学年と協力する。	A	・1・2年生全クラスでオリエンテーションを兼ねて終礼を図書館で実施し、利用促進を図るとともに、継続して図書館に足を運ぶ機会が増えるようイベントを実施してきた。	A	・延商の図書館は魅力的な本が多いと思う。私も借りたかったです。		

『延商の教育』を達成するための制度の充実『ワンチーム延商』の確立	【渉外厚生部】 保護者、地域社会との連携の強化。	・PTA 総会出席率 80%以上を達成する。 ・視察研修及び朝立ち番の積極的に参加する。	B ・今年度は出席及び委任状併せて 86%であった。 ・今年度より、PTA 合同朝の交通立ち番指導を 1 日にし、1,2,3 学期とも実施した。(再掲) ・2 学期は、視察研修に高鍋の製造工場と宮崎市の専門学校を訪問した。製造工場に関しては、最先端で職員のメンタルや安全面にも配慮した職場環境に触れ大変勉強になった。専門学校では、作業療法士の体験し見聞を広げることができた。(再掲)	A	
	【教育相談部】 個に応じた指導および必要な支援の充実	・職員研修を企画・実施し、教育相談活動や 特別支援教育の理解と環境調整 (ユニバーサルデザイン) の推進を行う。 ・各種委員会を適宜実施し、職員間の生徒状況の情報共有と対応への共通理解を図り、個に対して組織的な取り組みを行う。 ・通級による指導を行う。	A ・職員研修は講義形式で行った。次年度はディスカッションなど動きや発表を入れるなど内容や形式をより充実させたい。 ・通級による指導は、毎時間計画的に実施できた。今後、担任や教科担任と情報共有しながら支援の充実を図っていく。 ・外部機関を交えたケース会を複数回実施できた。今後にも必要に応じて実施していく。	A	
	【教育相談部】 生徒の実態把握とその対応	・学校生活調査、リクエスト相談により、生徒の悩みや実態を把握し、個別面談を通して具体的に速やかな対応と解決を図る。	A ・学校生活調査、生徒が相談しやすい環境を作るために実施しているリクエスト相談を計画的に実施できた。生徒の悩みや相談を通して関係職員と情報共有や速やかな対応を図った。	A	・実態調査は重要なデータかと思しますので、引き続き分析等で継続していただきたい。
	【教育相談部】 職員間の情報共有と連携強化	・保健室との連携や担任、関係部・職員との情報交換を密にして、支援体制の充実を図る。 ・SC や SSW、外部機関との連携を図る。	A ・SC (スクールカウンセラー) や SSW (スクールソーシャルワーカー)、外部機関との連携を図り、情報共有できた。 ・3 学期も生徒支援体制の充実に向けて各部、職員と連携を深めていく。	A	
	【事務部】 授業料と学校納入金の情報発信と納入促進	・授業料に関する就学支援金制度や奨学給付金制度を各家庭に周知徹底し、滞納を防ぐ。 ・長期滞納者に対して、各担任等との連携を図り奨学金制度等を紹介するなどして、早期納入を進める。	A ・対象となる家庭への周知・連絡ができています。 A ・滞納のある家庭へ催促し (丁寧な電話連絡等で納入を促す)、粘り強いやりとりを行っている。	A A	
	【事務部】 家庭・地域との連携	・「開かれた事務室」をモットーに、窓口・電話対応を親切・丁寧に行い、責任を持った適切な対応を行う。	A ・丁寧な対応ができています。	A	・窓口ではいつも笑顔で接していただいた。

A : 十分達成 (80%以上)

B : 概ね達成 (79~50%)

C : 検討の余地あり (49~20%)

D : 不十分 (20%未満)